

図表 21

代表一覧表に記載されている我が国の無形文化遺産

名 称	記載年	名 称	記載年
のうがく 能楽	平成20年記載	だいもくたて 題目立	平成21年記載
にんぎょうじょうるりぶらんく 人形浄瑠璃文楽	平成20年記載	こしきぶよう アイヌ古式舞踊	平成21年記載
かぶき 歌舞伎	平成20年記載	くまおどり 組踊	平成22年記載
がく 雅楽	平成21年記載	ゆうまつむぎ 結城紬	平成22年記載
おちやちぢみえちごじょうふ 小千谷縮・越後上布	平成21年記載	みづほなとうえ 壬生の花田植	平成23年記載
こしまじま 甌島のトシドン	平成21年記載	さだしのう 佐陀神能	平成23年記載
おくのと 奥能登のあえのこと	平成21年記載	なちでんがく 那智の田楽	平成24年記載
はやちねかぐら 早池峰神楽	平成21年記載	わしよく にほんじん でんとうてきしよくぶんか 和食：日本人の伝統的な食文化	平成25年記載
あきう たうえおどり 秋保の田植踊	平成21年記載	わし にほんてすわしぎじゆつ 和紙：日本の手漉和紙技術	平成26年記載
チャッキラコ	平成21年記載	やまほこ やたいぎようじ 山・鈴・屋台行事	平成28年記載
だいいちどうぶがく 大日堂舞楽	平成21年記載	らいほうしん かめん かそう かみがみ 来訪神：仮面・仮装の神々	平成30年度記載

第10節 文化財をはじめとする文化資源を活用した付加価値の創出

1 文化資源を活用したインバウンドのための環境整備

平成28年に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」において掲げられた「文化財の観光資源としての開花」を推進するため、文化庁では文化財を中核とする観光拠点の整備、並びに当該拠点等において実施される文化財等の観光資源としての魅力を向上させる取組への支援を行っています。

(1) 文化財活用・理解促進戦略プログラム2020

「明日の日本を支える観光ビジョン」等を踏まえ、文化庁において策定した「文化財活用・理解促進戦略プログラム2020」を推進します。これらの方針に基づき、引き続き、日本遺産をはじめ文化財を中核とする観光拠点を全国で200拠点程度整備するほか、文化財の一体的・面的活用や外国人の方にも分かりやすい解説の整備、文化資源の質の向上などに取り組むことにより、より一層の文化財の活用を図ります。

(2) 文化資源の磨き上げについて

平成31年1月より、国際観光旅客税が創設され、観光先進国実現に向けた観光基盤の拡充・強化が推進されているところです。文化財についても地域固有の文化資源として、国内外問わず多くの人々にその歴史的価値・魅力を発信すべく、国際観光旅客税を充当し、文化財に新たな付加価値を付与してより魅力的なものとなるよう磨き上げる取組を支援していきます。

具体的には、「日本博」を契機とした文化資源による観光インバウンドの拡充や、文化財に新たに付加価値を付与しより魅力的なものとするための取組「Living History（生きた歴史体感プログラム）」等を支援します。また、日本が誇る先端技術を活用し、主要な空港等において、日本文化の効果的な発信を行うことや、文化財について先進的・高次元な多言語解説を整備することに対して支援を行います。

2 日本遺産の魅力発信

地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として認定する仕組みを平成27年度に創設し、令和2年までに100件程度の日本遺産を認定することとしています。

平成30年度は、日本遺産審査委員会の審査を経て13件を認定しました（[図表22](#)）。これまでに認定された日本遺産は計67件となり、認定地域に対しては、①コンテンツ制作やガイド育成等の情報発信・人材育成、②ストーリーの普及啓発、③調査研究、④説明版の設置等の公開活用のための整備に対して必要な財政支援を行い、地域活性化を図っています。

平成30年9月には、富山県高岡市で各認定地域を一同に会した「日本遺産サミット」（約7,300人が参加）を開催し、ブース出展などにより地域の魅力発信を行いました。また、同時期に東京で開催された「ツーリズムEXPOジャパン」（国内外から約207,000人が参加）において、日本遺産をPRするための文化庁ブースを出展するなど、日本遺産の認知度の向上を図っています。加えて、各認定地域の課題に応じた助言等を行う日本遺産プロデューサーの派遣による個々の地域に応じた支援を行うなど、日本遺産全体のブランド力向上に取り組んでいるところです。

一方、各認定地域の取組の進捗には差もあり、状況に応じたメリハリを付けた事業を促進する必要があります。そのため、外部有識者からなる「日本遺産フォローアップ委員会」により各認定地域の取組の評価を行うとともに、必要な改善点を通知しています。これにより、認定地域が自らの課題を認識するとともに、事業の見直しを行うことで、より一層の日本遺産を活用した地域活性化を促します。

今後とも、これらの取組を通じて、日本遺産を活用した地域の活性化や、日本文化の国内外への戦略的な発信に積極的に取り組んでいきます。

図表 22

平成30年度「日本遺産（Japan Heritage）」認定一覧

道県名	申請者（◎印は代表自治体）	ストーリーのタイトル
北海道	◎上川町，旭川市，富良野市，愛別町，上士幌町，上富良野町，鹿追町，士幌町，新得町，当麻町，東川町，比布町	カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
山形県	◎山形県（山形市，寒河江市，天童市，尾花沢市，山辺町，中山町，河北町）	山寺が支えた紅花文化
栃木県	宇都宮市	地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～
栃木県	◎那須塩原市，矢板市，大田原市，那須町	明治貴族が描いた未来 ～那須野が原開拓浪漫譚～
富山県	南砺市	宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波
山梨県	◎山梨県（山梨市，笛吹市，甲州市）	葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—
長野県，山梨県	◎長野県（茅野市，富士見町，原村，諏訪市，岡谷市，下諏訪町，長和町，川上村），山梨県（甲府市，北杜市，韮崎市，南アルプス市，笛吹市，甲州市）	星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—
静岡県，神奈川県	静岡県（◎三島市，函南町），神奈川県（小田原市，箱根町）	旅人たちの足跡残る悠久の石畳道—箱根八里で迎える遙かな江戸の旅路
和歌山県	広川町	「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～
岡山県	◎岡山市，倉敷市，総社市，赤磐市	「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代古備の遺産が誘う鬼退治の物語～
広島県	福山市	瀬戸の夕風が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む瀬戸の浦～
大分県	◎豊後高田市，国東市	鬼が仏になった里「くにさき」
宮崎県	◎西都市，宮崎市，新富町	古代人のモニュメント—台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観—

第11節

文化芸術によるイノベーションの創出，国家ブランドの構築

1 文化経済戦略の推進

国・地方公共団体・企業・個人が文化への戦略的投資を拡大し，文化を起点に産業等他分野と連携し，創出された新たな価値が文化に再投資され，持続的に発展する「文化と経済の好循環」を目指し，平成29年12月に「文化経済戦略」を策定しました。この戦略は，①未来を志向した文化財の着実な継承と更なる発展，②文化への投資が持続的になされる仕組みづくり，③文化経済活動を通じた地域の活性化，④双方向の国際展開を通じた日本のブランド価値の最大化，⑤文化経済活動を通じた社会包摂・多文化共生社会の実現，⑥2020年を契機とした次世代に誇れる文化レガシー創出を基本となる考え方や重視すべき観点等を6つの視点として整理しました。さらに，この戦略推進のための主要施策の内容や目標等を明らかにした「文化経済戦略アクションプラン」を30年8月に策定し，関係府省庁と緊密に連携しながら文化経済戦略を推進します。

また，近年，興行入場券の高額転売が社会問題となっていることを踏まえ，興行入場券の適正な流通を確保し，もって興行の振興を通じた文化及びスポーツの振興並びに国民の消費